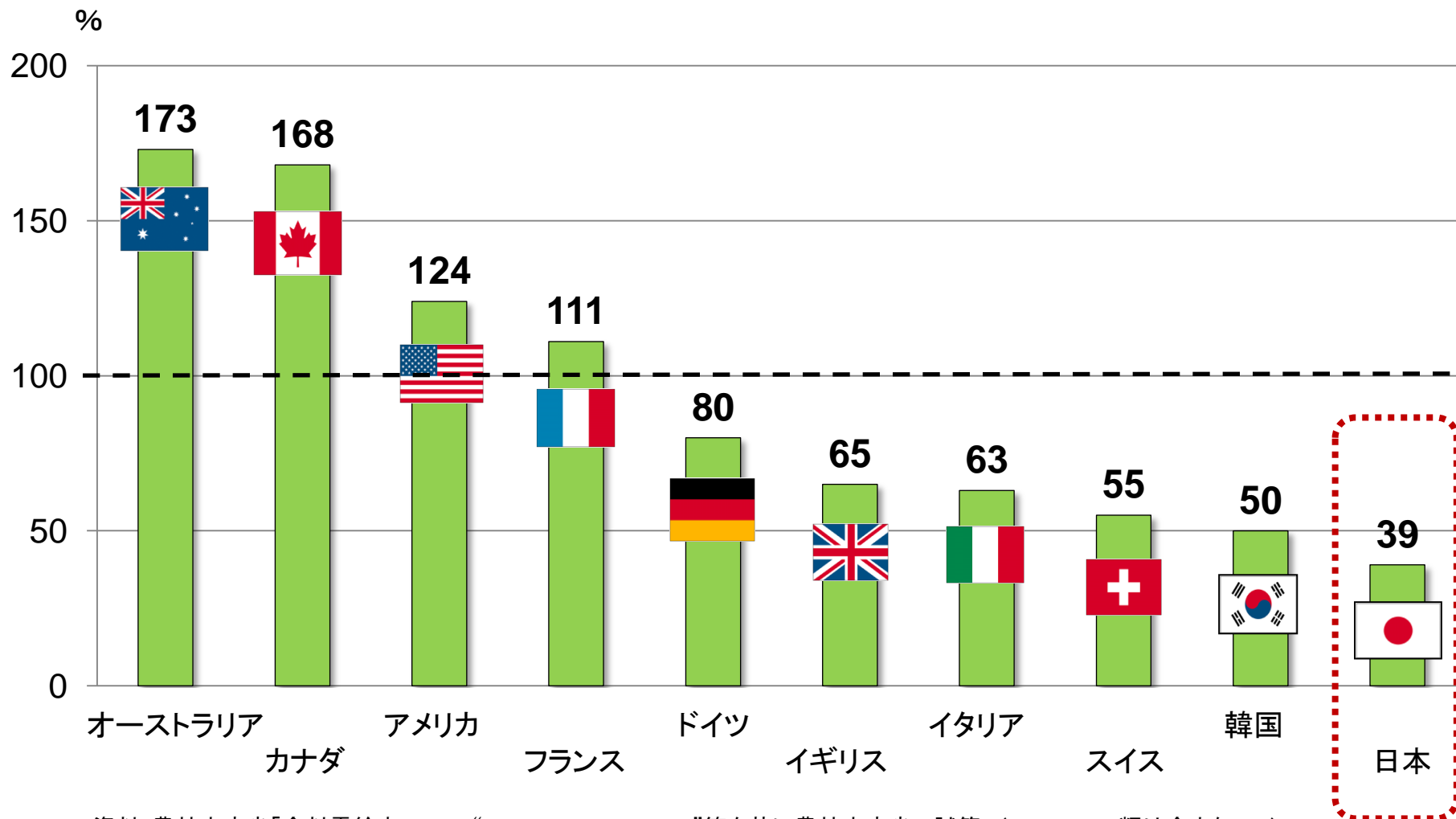


### 3. (1)食料自給率の各国比較



資料：農林水産省「食料需給表」、FAO“Food Balance Sheets”等を基に農林水産省で試算。(アルコール類は含まない。)

ただし、スイスについてはスイス農業庁「農業年次報告書」、韓国については韓国農村経済研究院「食品需給表」による。

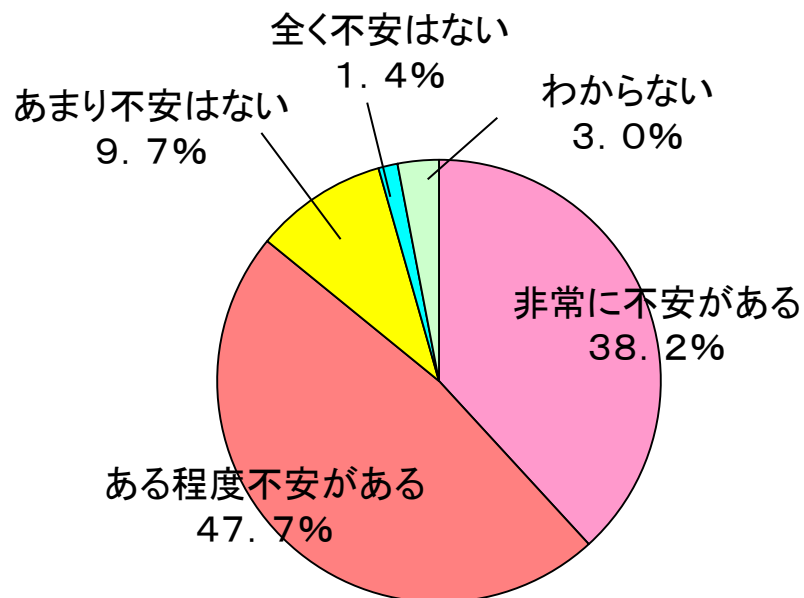
(注) 1. 数値は、2007年(ただし、スイスは2008年、韓国は2009年、**日本は2010年度**)

2. カロリーベースの食料自給率は、総供給熱量に占める国産供給熱量の割合である。畜産物については、輸入飼料を考慮している。

### 3. (2) 将来の食料輸入に対する国民意識

- **内閣府の世論調査**によれば、我が国の将来の食料輸入について、「非常に不安がある」、「ある程度不安がある」とする者の割合が8割超となっている。
- 主な不安の理由として、異常気象・災害による不作、地球環境問題の深刻化による食料増産の限界、国際情勢の変化による食料輸入の減少、世界人口の急激な増加などをあげている。

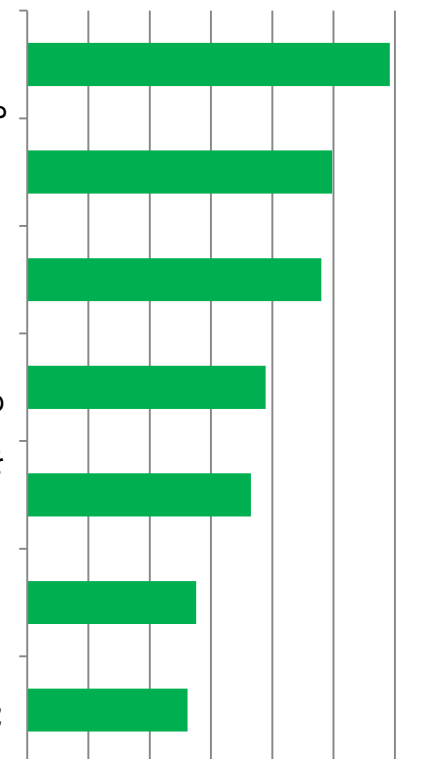
将来の食料輸入に対する意識



不安の理由(複数回答)

- 異常気象や災害による海外の不作の可能性があるため
- 長期的に見て、地球環境問題の深刻化や砂漠化の進行などにより、食料増産には限界があるため
- 国際情勢の変化により、食料や石油等の生産資材の輸入が大きく減ったり、止まったりする可能性があるため
- 世界人口が急激に増加するなどにより、食料に対する需要が大幅に増加するため
- 途上国の経済成長に伴い、大量の穀物を必要とする畜産物の消費が増え、穀物に対する需要が増加するため
- 穀物市場への投機資金の流入により、穀物価格の乱高下の恐れがあるため
- とうもろこしなどを原料とするバイオ燃料需要が増加して、穀物が足りなくなる可能性があるため

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%

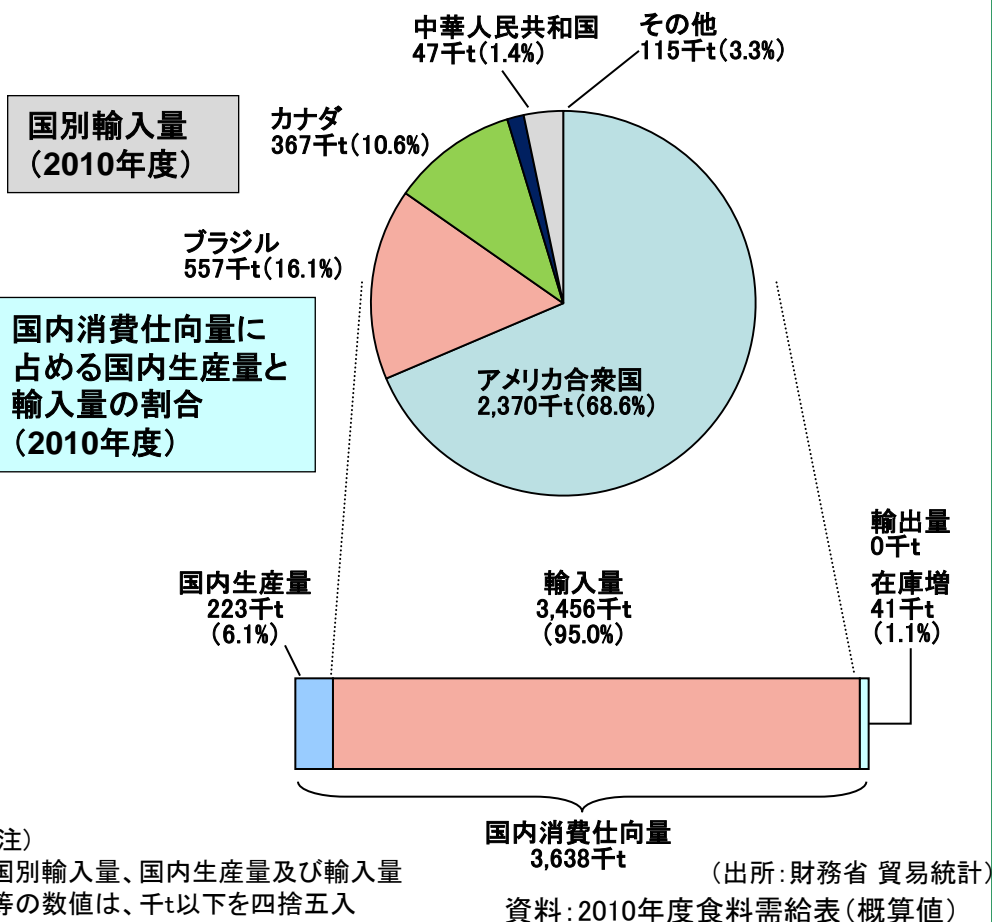


資料:内閣府「食料の供給に関する特別世論調査(2010年9月調査)」

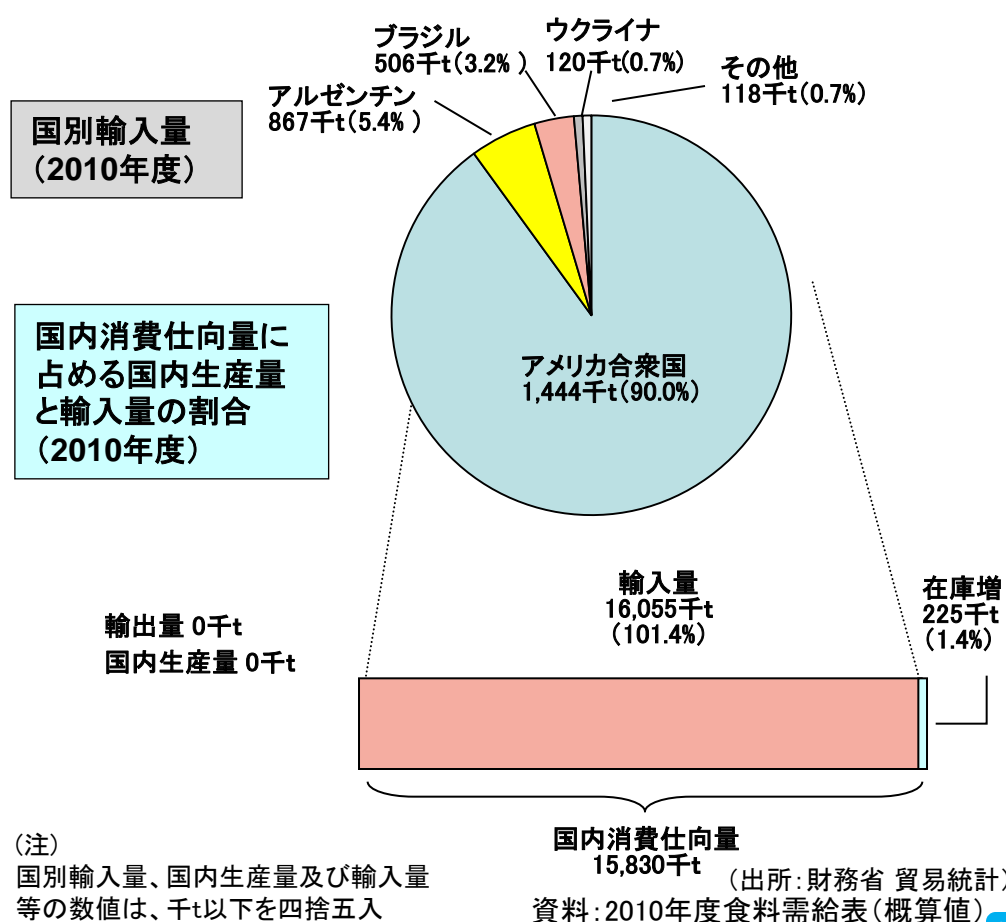
### 3. (3) 大豆及びとうもろこしの国別輸入量と割合

- 大豆については、国別輸入量を見ると、米国が7割弱、米国を含めた上位3カ国でほとんどを占めている。また、国内消費仕向量の9割以上を輸入に依存している。米国の占める割合は、2009年（71%）と比較して若干低下。
- とうもろこしについては、国別輸入量を見ると、米国が9割を占めている。また国内消費仕向量のほとんどを輸入に依存している。米国の占める割合は、2009年（95%）と比較して若干低下。

大豆の需給と輸入先国



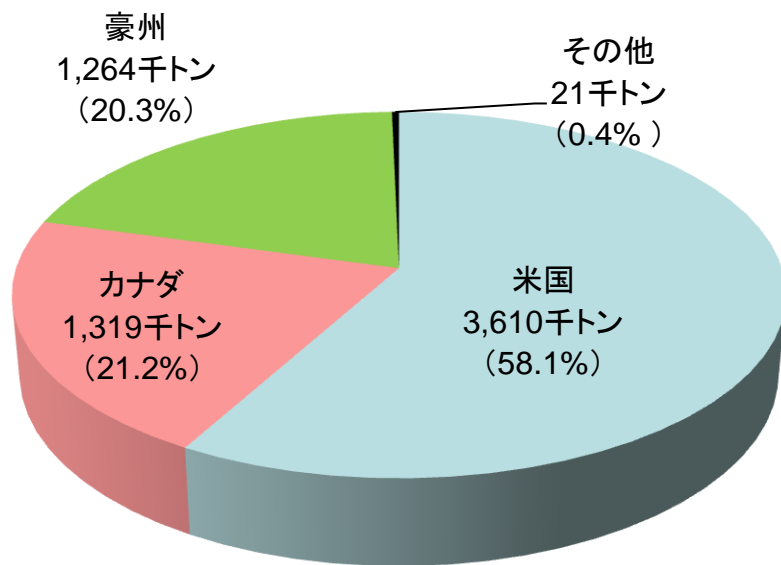
とうもろこしの需給と輸入先国



### 3. (4) 小麦の国別輸入量と割合

- 世界の小麦輸出は、各地域に分散しているが、2005年以降ロシアの割合が拡大している。我が国の小麦の国別輸入割合を見ると、米国が6割弱、カナダと豪州とも約2割を占め、この割合は過去ほとんど変わっていない。

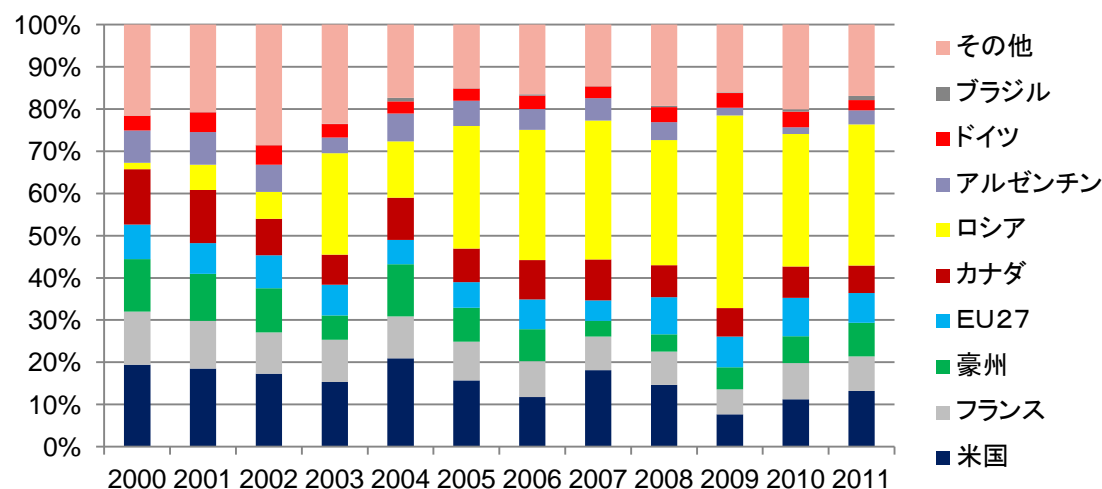
我が国の小麦輸入の国別割合



2011年の輸入量

6,214千トン

世界の小麦輸出の国別割合



資料: Global Trade Atlas より作成

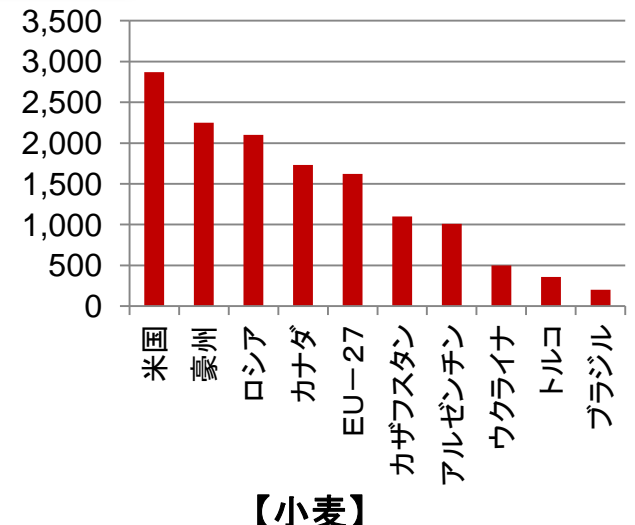
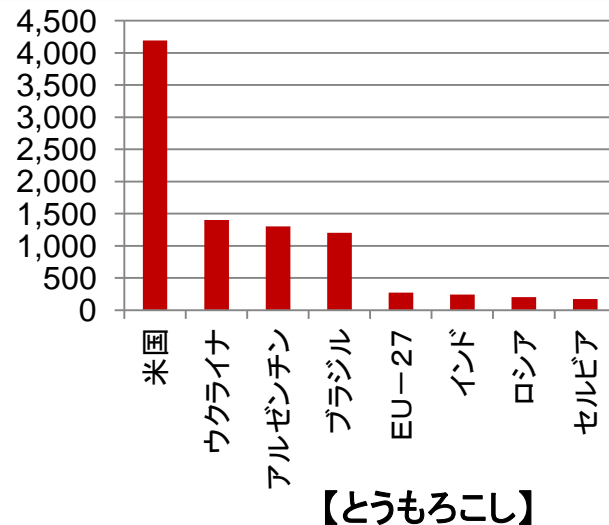
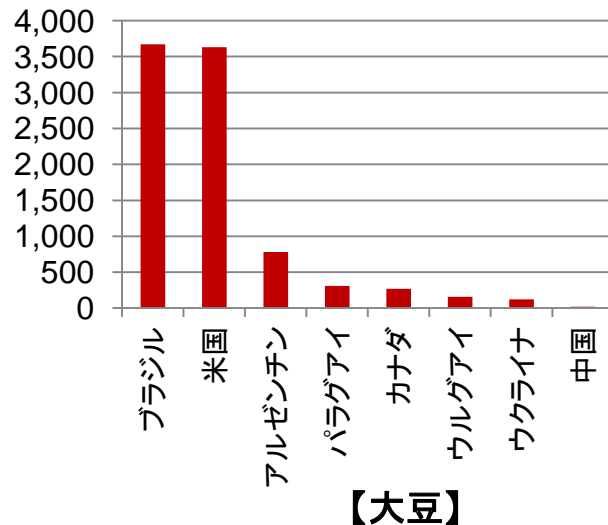
### 3. (5) 穀物等の主要な輸出国

○ 大豆やとうもろこしの輸出について、ブラジル、アルゼンチンやウクライナの国際的な位置づけが高まっている。

穀物等の輸出国順位の推移

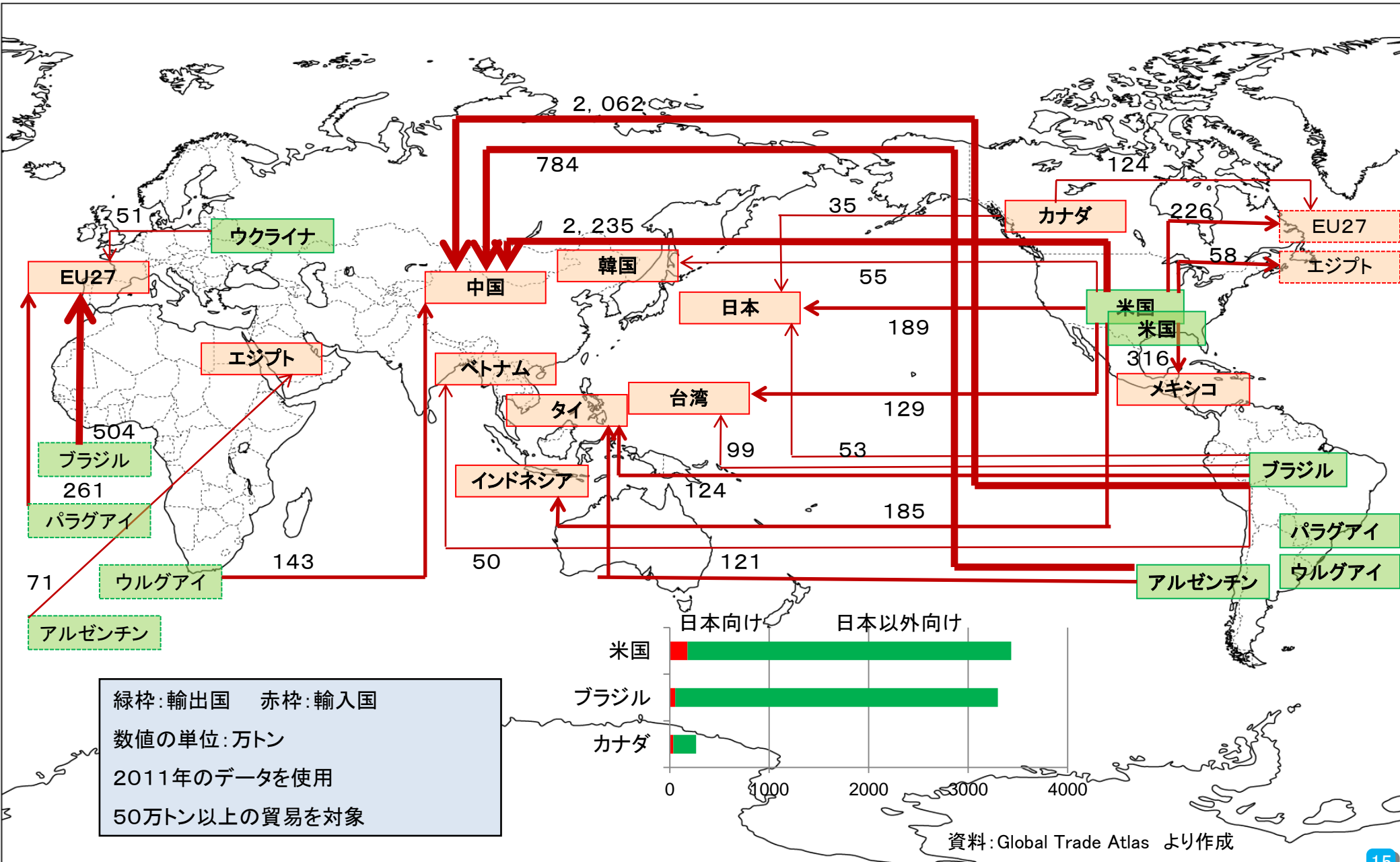
	大豆			とうもろこし			小麦		
	2007/08	2009/10	2011/12	2007/08	2009/10	2011/12	2007/08	2009/10	2011/12
1位	米国	米国	ブラジル	米国	米国	米国	米国	米国	米国
2位	ブラジル	ブラジル	米国	アルゼンチン	アルゼンチン	ウクライナ	カナダ	EU-27	豪州
3位	アルゼンチン	アルゼンチン	アルゼンチン	ブラジル	ブラジル	アルゼンチン	ロシア	カナダ	ロシア
4位	パラグアイ	パラグアイ	パラグアイ	インド	ウクライナ	ブラジル	EU-27	ロシア	カナダ
5位	カナダ	カナダ	カナダ	南アフリカ	南アフリカ	EU-27	アルゼンチン	豪州	EU-27
6位	ウルグアイ	ウルグアイ	ウルグアイ	ウクライナ	インド	インド	カザフスタン	ウクライナ	カザフスタン
7位	中国	ウクライナ	ウクライナ	パラグアイ	EU-27	ロシア	豪州	カザフスタン	アルゼンチン
8位	ウクライナ	中国	中国	カナダ	パラグアイ	セルビア	中国	アルゼンチン	ウクライナ

穀物等の主要輸出国(2011/12年、万トン)

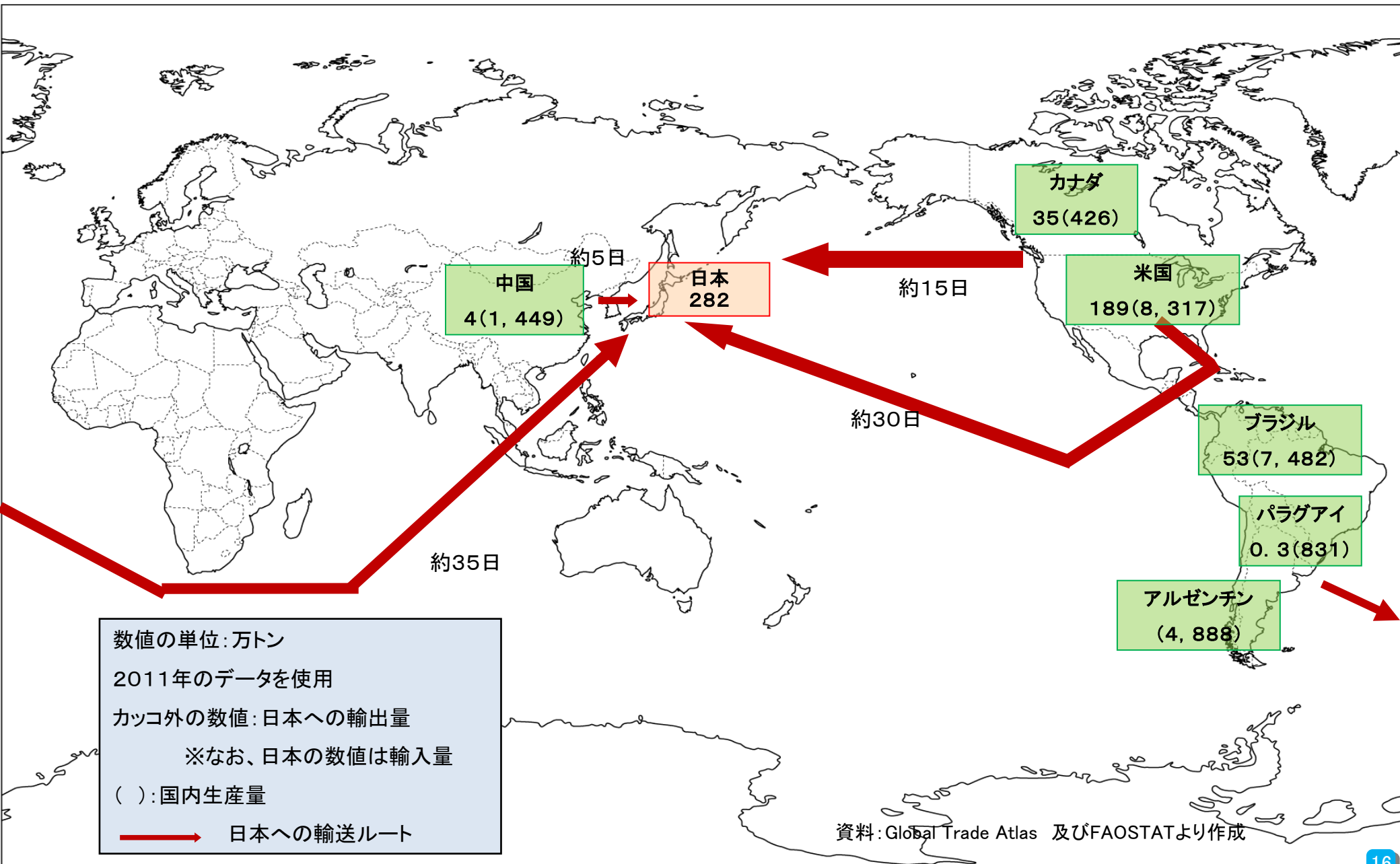


資料:USDA「PS&D」より作成

## (6) 大豆の二国間国際貿易

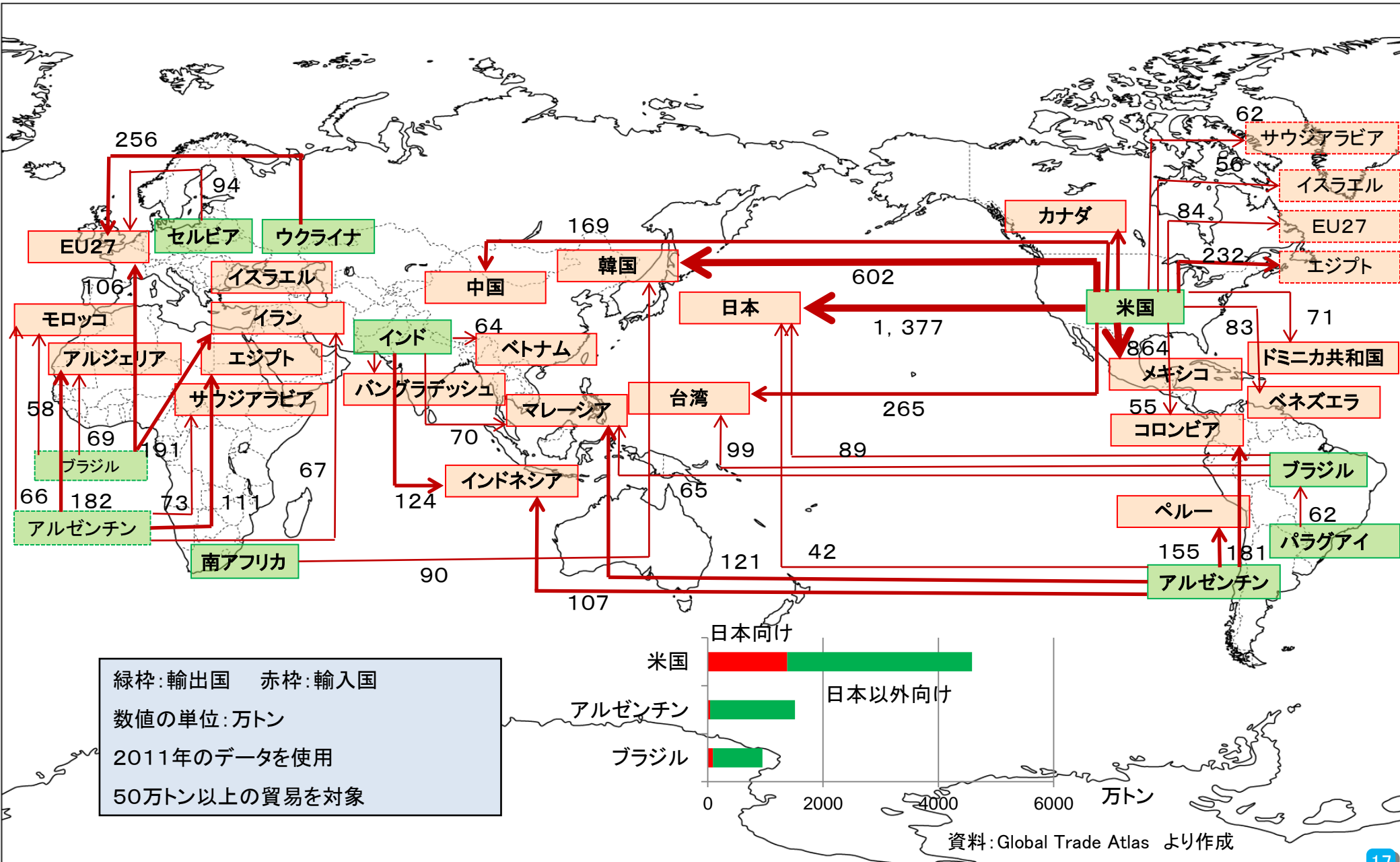


### 3. (7) 我が国への大豆の供給



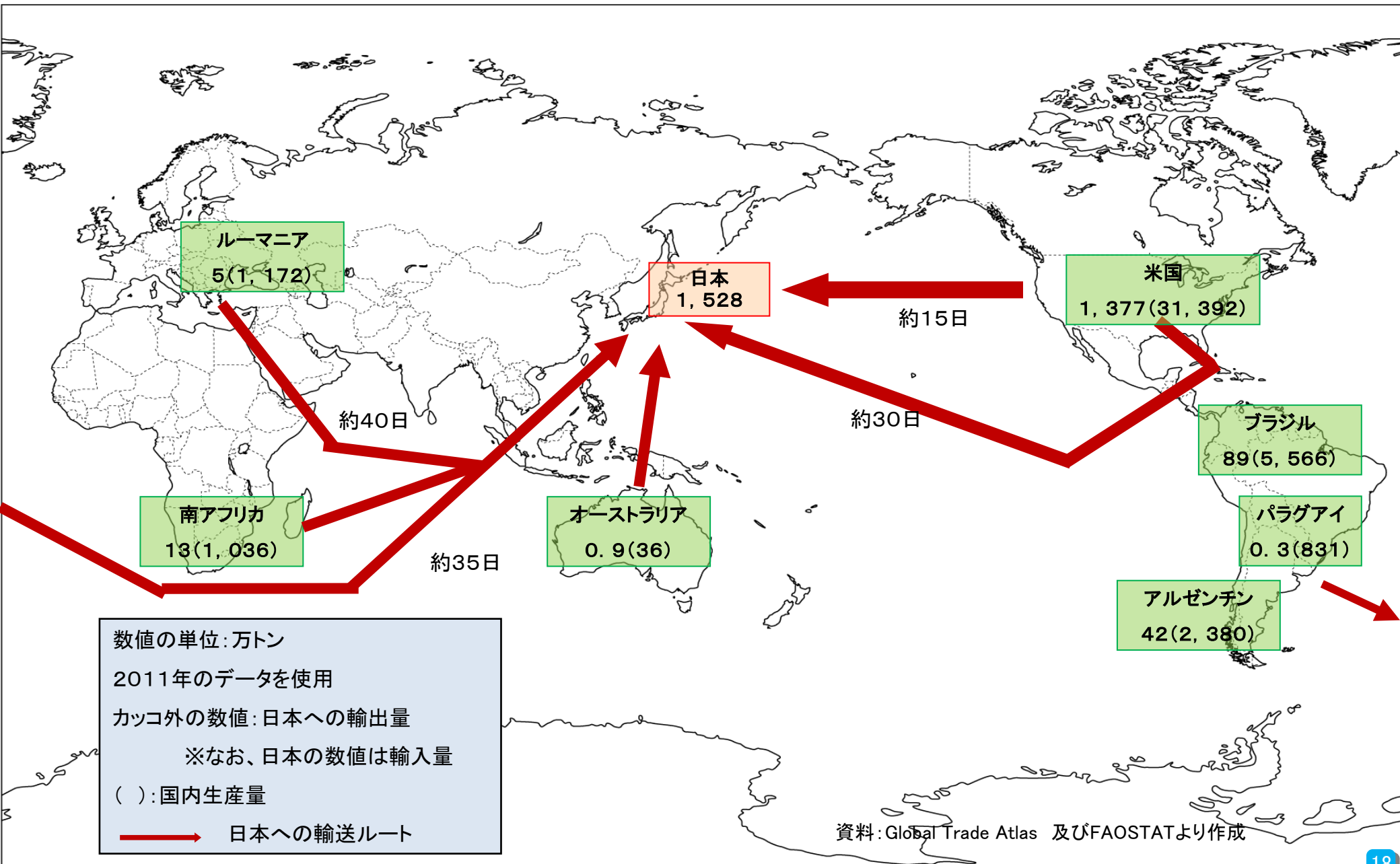


### 3. (8) とうもろこしの二国間国際貿易





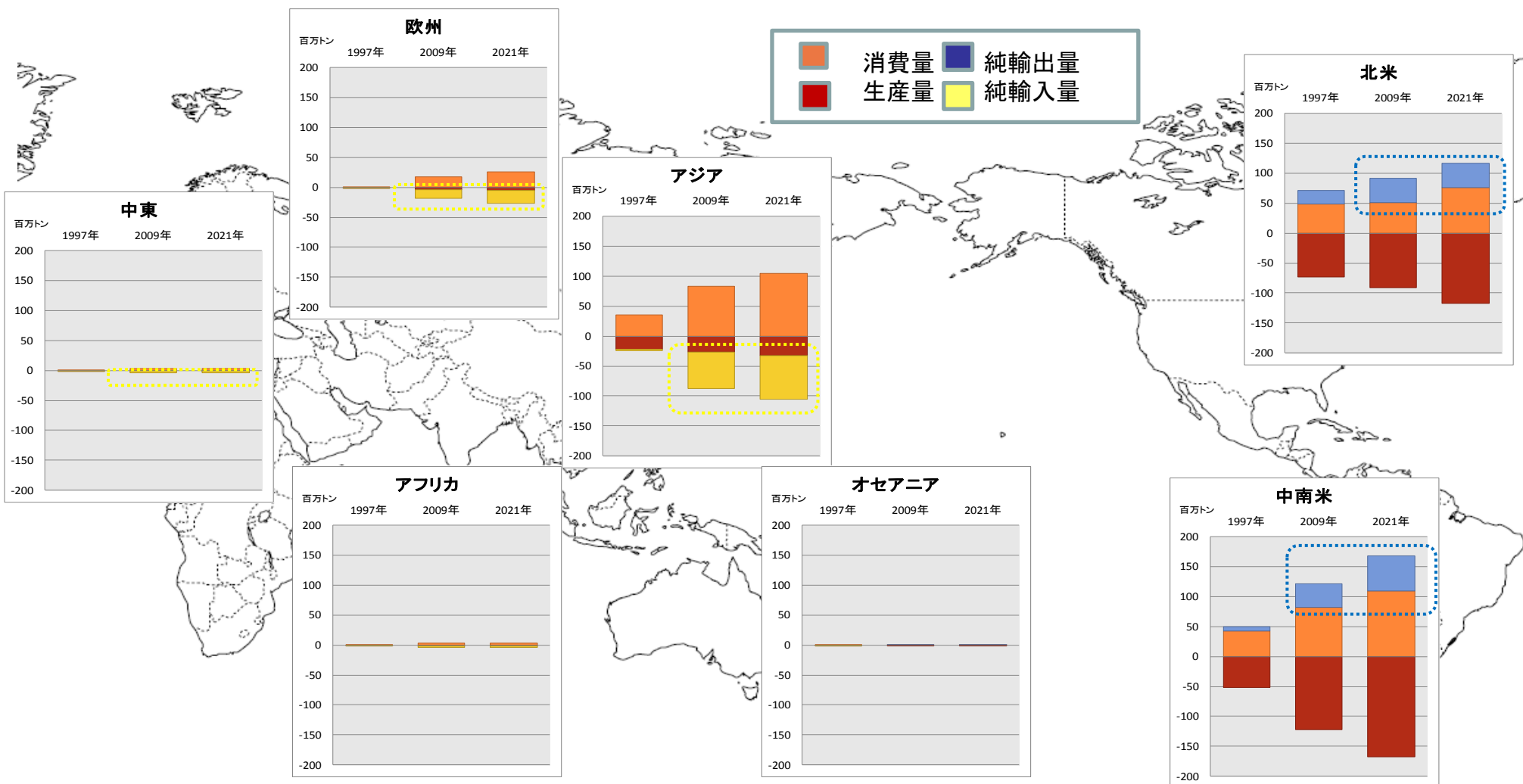
### 3. (9) 我が国へのとうもろこしの供給





### 3. (11) 大豆の需給動向と見通し（地域別）

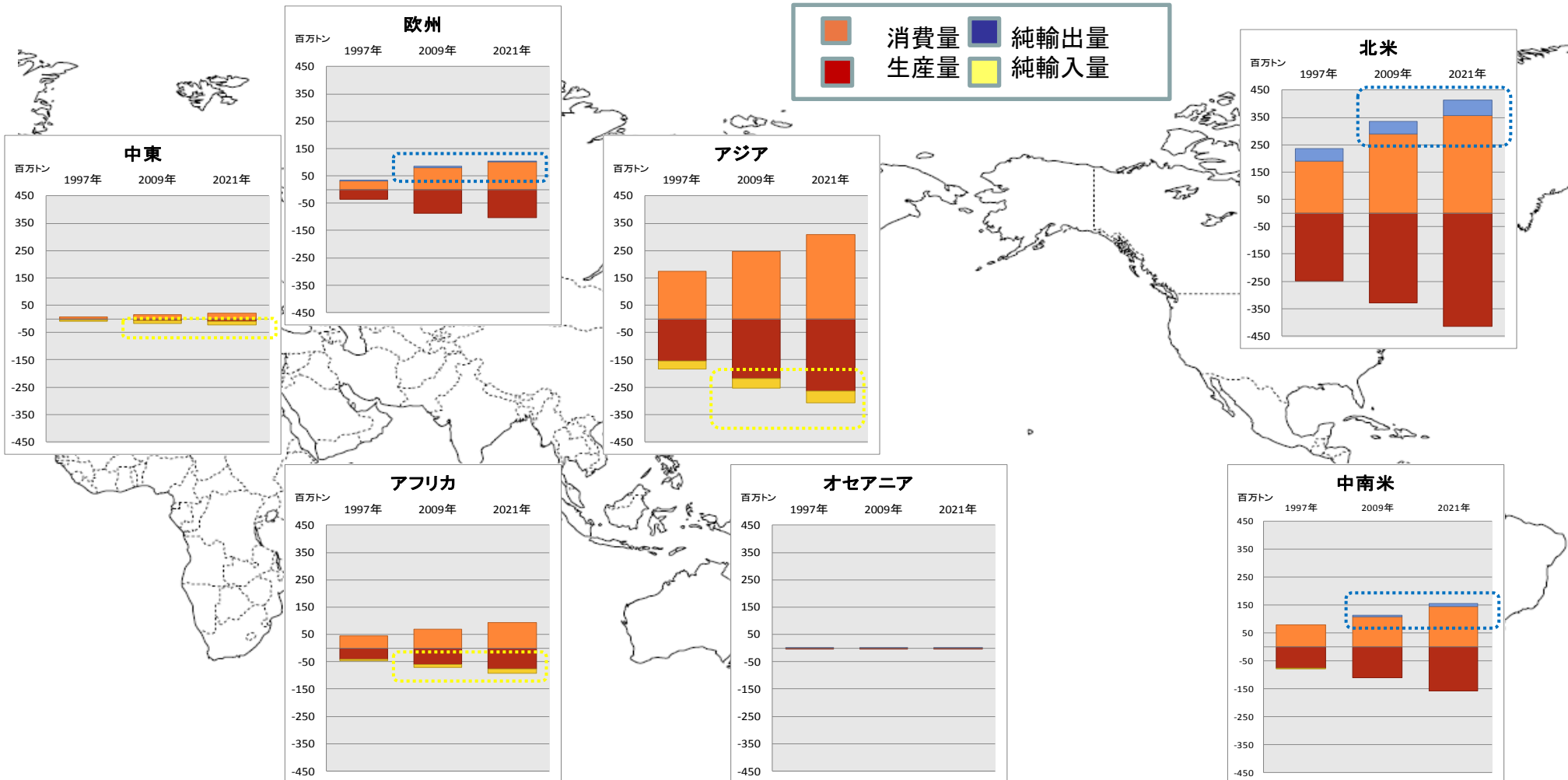
- 農林水産省農林水産政策研究所の研究報告によれば、大豆については、搾油用や飼料用需要の増加が著しい中国を含むアジアや、欧州の純輸入量が拡大。
- このアジア、欧州の純輸入量増に対して、供給面では、北米の純輸出量は現状程度で推移するものの、アルゼンチンを中心に中南米の生産増大により純輸出量が拡大。



資料: 農林水産省農林水産政策研究所「2021年における世界の食料需給見通し」(2012年2月)

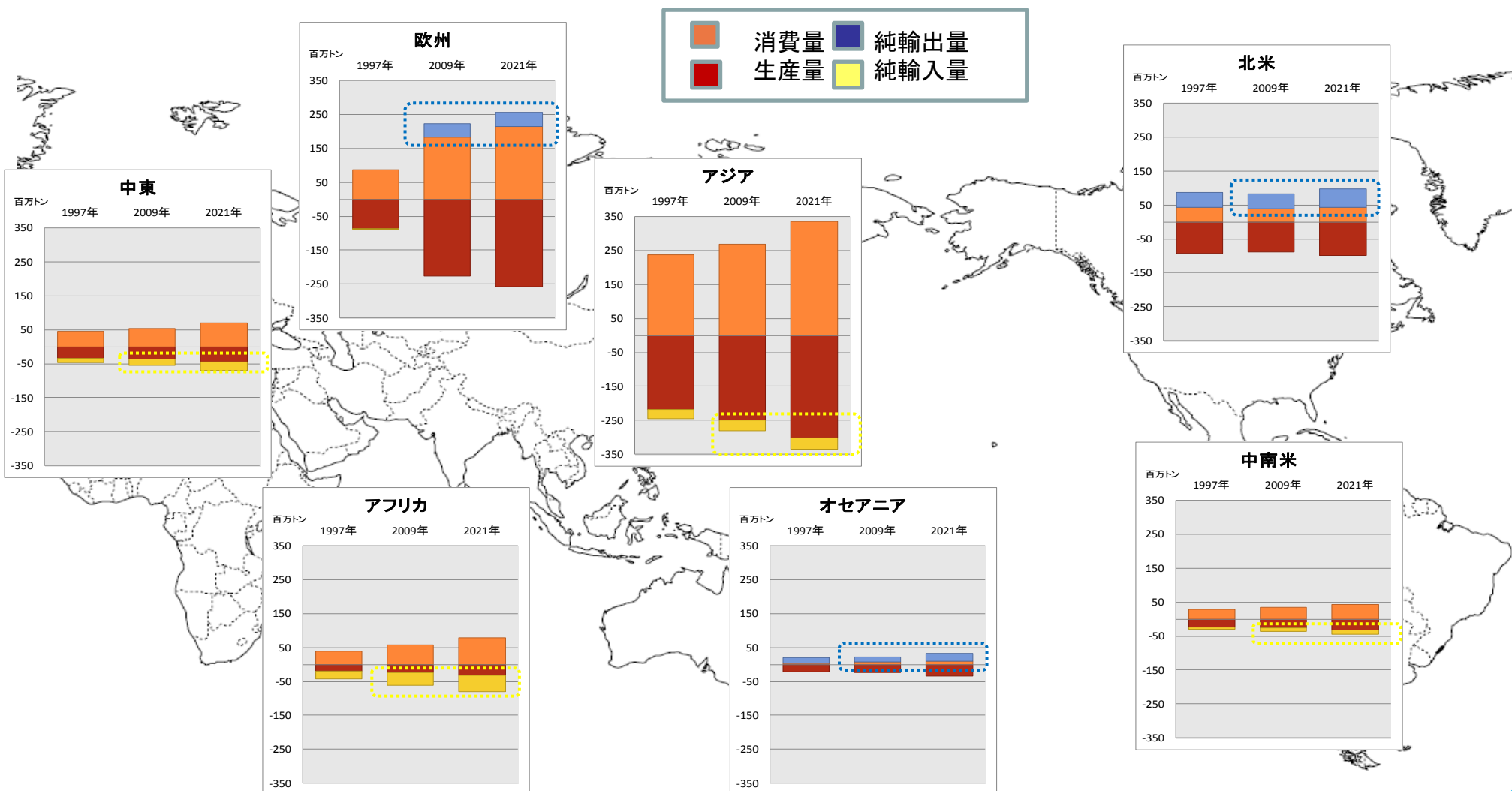
### 3. (12) とうもろこしの需給動向と見通し（地域別）

- 農林水産省農林水産政策研究所の研究報告によれば、とうもろこしについては、純輸入地域のアジア、純輸出地域の北米の二地域で世界の消費量・生産量の約7割を占め、引き続き消費量・生産量ともに増加する見通しで、他の地域の貿易シェアは引き続き低い。
- 消費量のうち、飼料需要が約6割、バイオエタノール需要が約15%と需要の仕向け比率は横ばいの見通し。



### 3. (13) 小麦の需給動向と見通し（地域別）

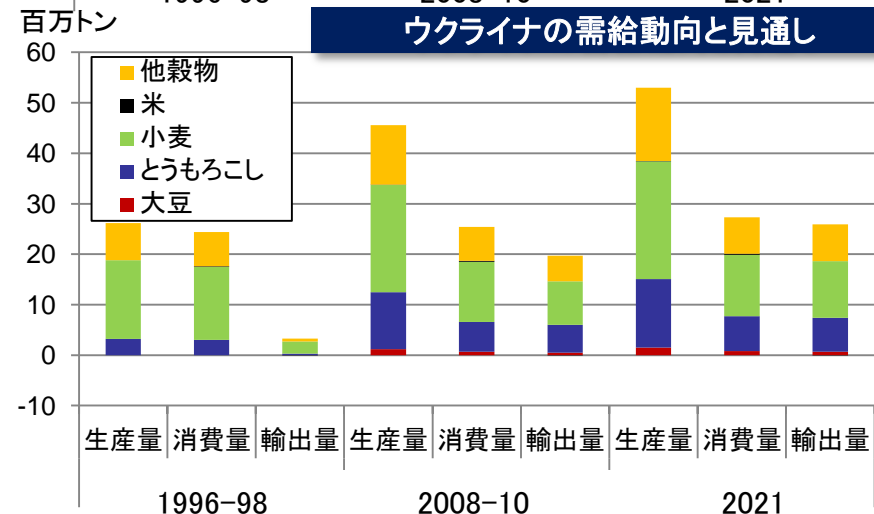
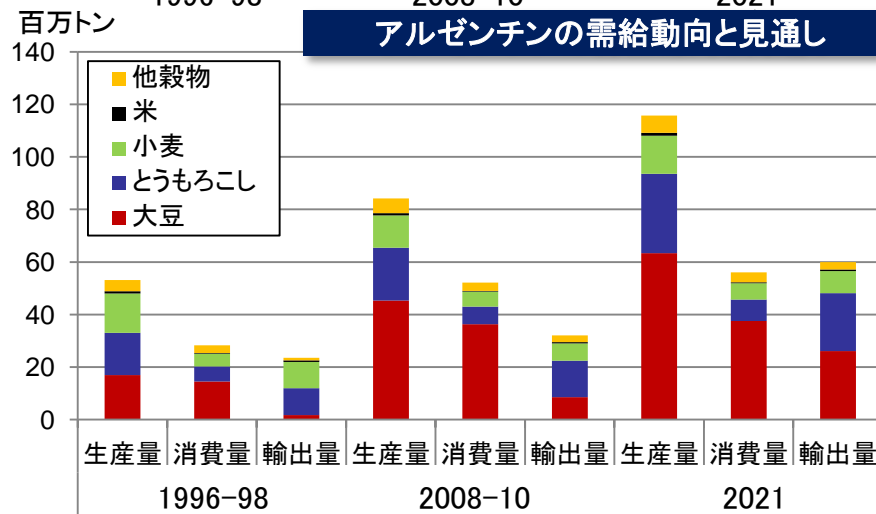
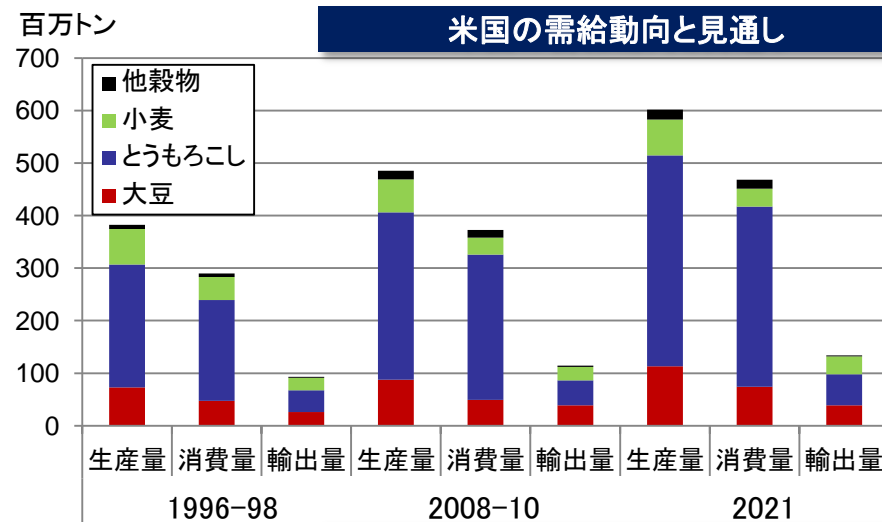
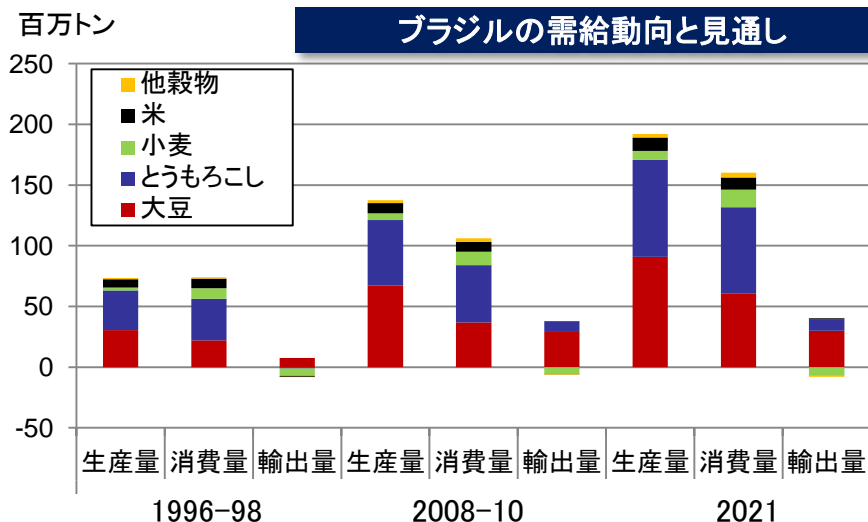
- 農林水産省農林水産政策研究所の研究報告によれば、小麦については、純輸入地域のアジア、純輸出地域の欧州の二地域で世界の消費量・生産量の約7割を占め、引き続き消費量・生産量ともに増加する見通し。
- また、アフリカ、中東、中南米で、消費量が増加し、純輸入量もアフリカを中心に増加する見通し。



資料: 農林水産省農林水産政策研究所「2021年における世界の食料需給見通し」(2012年2月)

### 3. (14) 主な穀物等輸出国の需給動向と見通し

- 米国をはじめ、南米のブラジル、アルゼンチンや東欧のウクライナでは、穀物等の生産量が大幅に増加し、輸出が増大してきた。
- 農林水産省農林水産政策研究所の研究報告によれば、今後もこの傾向が続く見通しであるが、ブラジルについては、とうもろこしの輸出は増加するものの、大豆は国内需要増により純輸出量はほぼ横ばいで、小麦の輸入が増加する見込み。

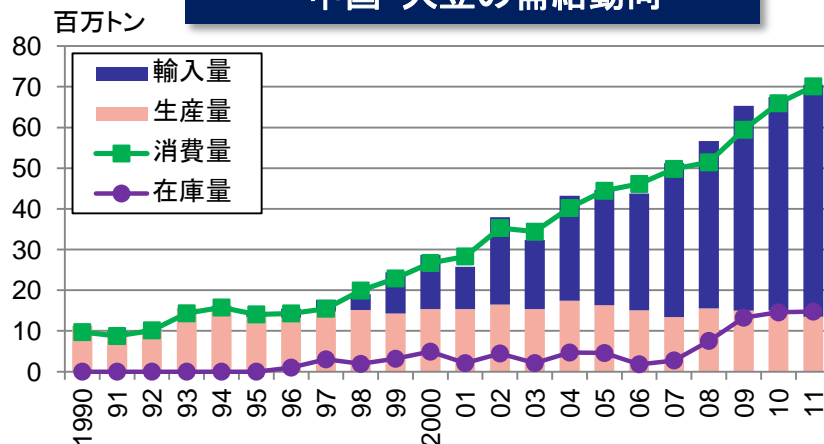




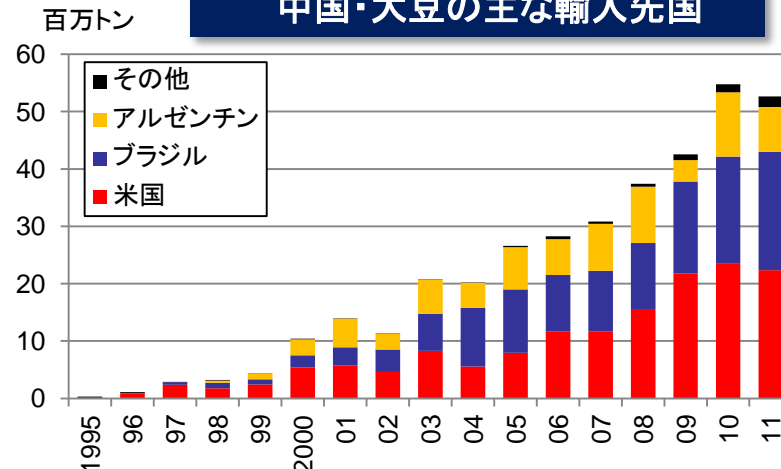
### 3. (15) 中国の需給動向と見通し

- 中国では、1990年代末から生活水準の向上で食用油と飼料（肉類の消費量増大）の需要が増大する一方、大豆の国内生産は横ばいに推移し、大豆の輸入が急激に拡大。とうもろこしは、国内生産で対応してきているが、最近では備蓄補てんのための輸入も見られる。
- 農林水産省農林水産政策研究所の研究報告によれば、中国の一人当たり肉類消費量は、今後も引き続き増大するとともに、肉類や大豆、とうもろこしの輸入量が拡大する見通し。

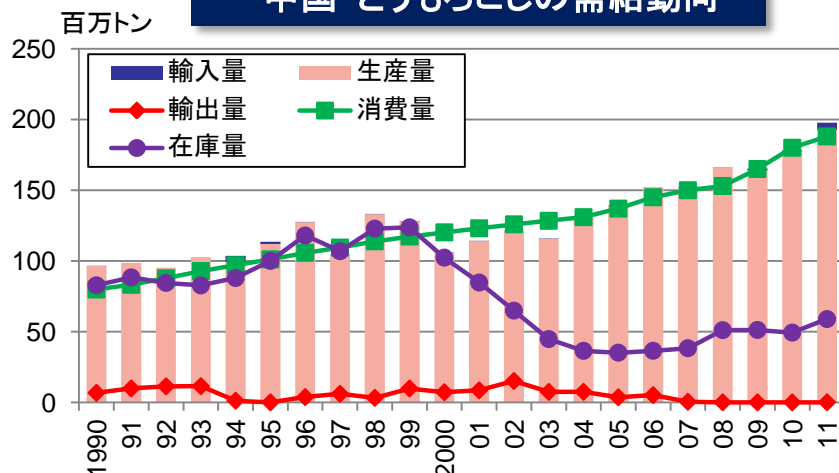
中国・大豆の需給動向



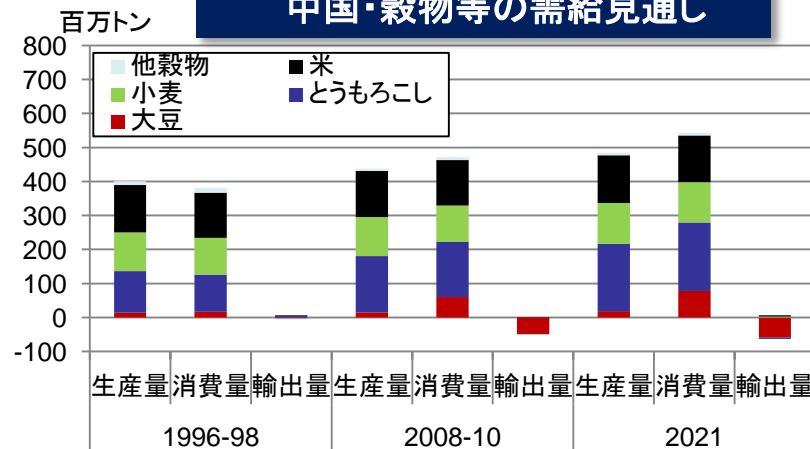
中国・大豆の主な輸入先国



中国・とうもろこしの需給動向



中国・穀物等の需給見通し



資料：USDA「PS&D」及びGlobal Trade Atlas より作成

資料：農林水産省農林水産政策研究所「2021年における世界の食料需給見通し」(2012年2月)により作成